

○質問者 それは、結局、今回、2Cとか4Dとかというパワーセンターですね。そこに電源車を付けて、それでケーブルを引っ張って1号機とかも融通するような形で作業をされていますね。

そういう形で、多分優先順位があると思うんですけども、例えば残留熱除去系だけを考えたときに、海水ポンプをまず直して、それで電源車から電源をパワーセンターを通じてやると使えるように。

○回答者 多分、2Cのパワーセンターからだ、電源の電圧が足りないんですよ、だから、RHRは結構でかい負荷なので、上だったと思うんです。だから、そのパワーセンターからは難しいと思いましたね。

パワーセンターで拾える負荷ぐらいのものは、全部拾ったんですけども、その中に入っていないですから、RHRが動かないんですね。

○質問者 では、メタクラとかからという話になってくるんですか。

○回答者 はい。

○質問者 では、今回はこの残留熱除去系とかあるいは1号の格納容器冷却系というのは、ちょっと無理だなということになるわけですね。

○回答者 勿論、復旧する際の優先事項としては、当然頭に入っているんですけども、状況を見れば、かなり実現性が低いというふうに思っている。

○質問者 そうすると、恐らく復旧手順ガイドラインとか、こういうところののっとってみたいな事態ではないと。

○回答者 はい。

○質問者 あと、次に行きますけれども、手順書類の管理等は。

○回答者 済みません、これは、多分このガイドラインは、単一故障みたいに考えて、DGそのものは1台はトラブルってしまったとか、RHRが何かトラブルってしまったとか、どんと全部一遍にだめになるような事情想定していませんから、そういうところが、もともと違う。

○質問者 例えば交流電源喪失なんかも、こちらのガイドラインの方で、兆候ベースから見わけですかね。それで、ぼんと出ているんですけども、それを見ると、要するにそういう場合に他号機から電源を融通して、その間に復旧させて、そういう感じのことが書いてありますね。そうすると、他号機までやられていると、もう使えないという話ですね。今回は、そういうところでは、ここも超えてしまっている。

○回答者 今回、一番注意しなければいけないのは、電源だけの問題ではなくて、要するに、あそこの外部電源喪失を考えて、プラントがあって、外部の送電線から持ってきて、こいつだけがだめだったら、要するによそから他に持ってきて、これにつないで、電源をやればいいんです。だけれども、この下の負荷そのものが、負荷の電源盤だとか、これを使っているわけですから、これを持ってきてもこれは動かないんですよ。もともとどだい想定している事象が、単純に外部電源だけの損傷であれば、どこかから思いっきり大至急